# 2015年12月定例会一般質問全貌

（前住議員）　はい。皆さんこんにちは。

（　　）　こんにちは。

（前住議員）　傍聴席の皆さん、またインターネット中継でご覧の皆さんお忙しい折に傍聴いただきましてありがとうございます。5番前住孝行です。10月18日に若桜氷ノ山でＯＳＪのトレイルランと同時開催での第1回若桜町トレイルランレースが行われました。議員1年目の一般質問でも氷ノ山でのマラソン大会はできないのかといった質問をさせてもらってからの実現で大変喜ばしく思います。私も誘導ボランティアとして参加させていただいて、走っておられるかたを見ていると自分も走りたくなるような天候と景色の中での開催で、来年はぜひ走る方に回りたいなとも考えています。全国でもこのマラソンブームを機に地域の活性化と体力づくり等の目的でマラソン大会を開催されています。若桜独自の特色を活かせる大会になるよう、さまざまな分野の方の声を聞いて、改善点等もありましたがそれを修正し、みんなでつくる大会になればと思っております。

## 地域おこし協力隊の活用について

　それでは通告をさせてもらっています「地域おこし協力隊の活用について」質問をいたします。

　まず、現在さまざまなかたちで地域おこし協力隊を招き、若桜の地で一生懸命地域活性化に力を貸してくださっている協力隊の数とその成果を伺います。

（川上議長）　答弁を求めます。小林町長。

（小林町長）　はい。現在、地域おこし協力隊の数とその成果についてのお訊ねでございますけども、地域おこし協力隊の制度は2009年に総務省によって制度化されて人口減少や高齢化等の進行が著しい町において、地域外の人材を積極的に受け入れ、協力活動を行ってもらい、その定住定着を進めることで地域力の維持強化を図っていこうということを目的とした制度であります。隊員の任命期間はおおむね1年以上、最長3年までとなっています。ちなみに2014年度には全国444の自治体で1,511人の隊員が活動しています。

　若桜町では現在3名のかたに活動していただいています。1人目のかたは3年目を迎えられ、自分でお店を持ち、鹿革の加工製品を作っておられますし、2人目のかたも2年目ですが、既に自分でお店を持たれ、鹿の角などを加工したアクセサリーの販売をされておられます。また、3人目のかたはまだ1年目ではありますが、若桜鉄道で観光振興や企画・商品開発等行っていただいており、若桜鉄道の経営に貢献していただいております。なお、現在町内で活動されておられるかたについてはそれぞれ地域の活性化に寄与していただいておると思っておりますし、これまでには地域おこし協力隊

で採用した方で残念ながら林業就労を希望された方1名とアクセサリーの加工販売を希望された方1名についてはさまざまな事情により任命期間が終わるまでに辞められております。総務省も新年度から地域おこし協力隊を3,000名に増やすとも言っております。今後も地域振興につながるよう地域おこし協力隊を任命していきたいと考えておるところでもございます。

（川上議長）　前住孝行議員。

（前住議員）　はい。私自身もちょっと協力隊員の方の本当に定住というのを支援したいなというふうに考えておりまして、何とかいろんな分野での関わりを持たせたいなというふうに思って、常日頃思っておったんですけど、このたび、やっと若桜学園の親子会でかかわれることができまして、3年目の鹿革細工の方と2年目の貴金属加工の方のところに2年生14名の児童がいるんですけど、半々に分かれてキーホルダーづくり等させていただきました。やっぱりなんか若桜に来てくださってこうやって活動してくださっているんですけど、町民の方もなかなか知っておられないというような状況がありまして、何とかそこら辺は本当に広報というかね、周知、周知というか、何とか関わりを持たせていきたいなというふうに私自身も思っているところです。それで、先ほど町長の答弁の中にも定着ということが重要になってくると思うんですけど、この3名のかたについてですが、今後若桜町に定着してもらえるかどうかというような想定というのは、当然あれなんでしょうけど、どんな様子なんでしょうか、お訊ねします。

（川上議長）　答弁を求めます。小林町長。

（小林町長）　はい。私も皆さんの心までも見抜いておりませんので、どうかということは言えませんけども、私は皆さんには若桜に住んでいただいてという期待は持っておるところでもございまして、そういう気持ちでお付き合いもさせていただいておるところです。

（川上議長）　前住孝行議員。

（前住議員）　はい。やっぱりこの地域おこし協力隊を受け入れるというか、定着していくにして、いろんな課題点があるんじゃないなかというふうに思います。実際に帰られた方等もさまざまな状況でということですけど、またその辺やっぱりしっかり課題点を検証してその辺は改善していかないといけないのかなというふうに思っているところです。それで、私自身も関わることでいろいろ話を聞かせていただいたこともあったりしたんですけど、やっぱり継続していくのにいろんな設備投資等の支援等も必要になってくるんかなというふうなことも受け取りました。それで、さまざまな人間関係でいろんな工夫をされながら、何とか経営をされているような状況もありますけど、また協力隊員の意見もいろんなかたちで取り入れながら続けていってほしいなというふうに、何とか定着に結び付けてほしいなというふうに思っております。

では、２番目の質問に入りたいと思いますが、今後地域おこし協力隊をどのような分野に活用されるおつもりか、お訊ねします。

（川上議長）　答弁を求めます。小林町長。

（小林町長）　はい。今後地域おこし協力隊はどのような分野にということでございますけども、現在若桜町では農業の従事者が高齢化しておりまして、遊休や荒廃農地が増えております。そのため、後継者不足の解消や農業を活性化させていくための地域おこし協力隊の受け入れも考えておりますし、また、若桜町の伝統工芸品である木工製品製造や土産品の開発販売など若桜町で取り組んでみたいという相談もいただいております。地域おこし協力隊をはじめ、若桜町の移住希望者などが気軽に立ち寄れる場所として現在若桜駅前のトスクの２階にも移住相談の窓口と併せまして地域おこし協力隊をはじめとした移住者の交流拠点となるセンター施設を整備して、仕事面だけでなく人づくりや地域との関係づくりの支援もしていくよう考えており、地域の中で安心して暮らせるよう環境の整備もあわせていきたいという具合に思っておるところでございます。今、農業部門でも確定が３人ほどございまして、それからまた商工部門隊員２名、まだ未確定でございますけども、そういうところからも来ておられまして、これからたくさんの方が若桜に来て住みたいということもございます。それから１つは、これからもいろいろな地域の集落の中にも入って、できればそういう活躍をしていただきたい、そういうのも私たちも地域が受け入れていただければやっていきたいなということも思っておるところでもございます。

（川上議長）　前住孝行議員。

（前住議員）　はい。本当に農業のかたが３人とか、商工会関係２人というのはとても、何か想定以上の数字でとてもいいなというふうに思っております。それと、木工の方も来られるということですね、そういうこともあるのはすごいいいことだなというふうに思いました。それで、この地域おこし協力隊ということで移住の観点があって、地方創生の絡みもあって来るんかなというふうに思いますが、それで、若桜町の総合戦略の中にも、先ほど山本議員の方の一般質問の方にもありましたけど、この総合戦略の 14 ページにⅢの「豊かな森の中で営む仕事づくり」ということで、基本目標及び数値目標として「農林業による新規就農者が 10 名」、（５年間）というふうに書いてありますが、今後そういった目標でされていくと思います。全部が全部地域おこし協力隊じゃなく、当然地元のかたの雇用というのが優先ではないかなというふうに思ったりしているんですけど、その辺と何かあわせて地元の人がだいたいこれぐらいおんさって、今後、林業関係がちょっと今、先ほど数字がなかったんですけど、どれぐらいの方を想定しているのかということが、もしありましたらお願いしま

す。

（川上議長）　答弁を求めます。小林町長。

（小林町長）　はい。今のところ、地域おこし協力隊の林業何名というのはまだそういう目標は定めておりません。

（川上議長）　前住孝行議員。

（前住議員）　はい。本当に以前も映画が流行っているということで、「ＷＯＯＤ　ＪＯＢ！」という映画が流行っているということも話させてもらって、やっぱり都会のかたでも林業に従事したい方も増えてきたりしているのかなと思ったりしております。それと、ちょうど鬼っこまつりの日だったんですけど、同時に八頭森林組合の方で、何か林業祭りみたいなのをされておりまして、ちょうど私の息子がちょっと父親に連れて行かれて、八頭森林組合の祭りの方に、鬼っこまつりを抜け出して行っておりまして、そのときに何ていうんですか、グラッパーっていうんですかね、あれで木の積み木をこうさせてもらっていて、すごい何かいいことをさせてもらっているなと感心しました。本当はああいう機械を、まだ小学校５年生なんですけど、使わせてもらって体験したのは、たぶんうちの長男は林業に従事するんじゃないかなというふうなことを思うぐらいの体験だったんじゃないかなというふうに思いました。すいません、余談になっておりますけど、そういったことも本当に体験として企画しながらやれば、本当に都会からも来てもらえるんじゃないかなというふうに思ったところです。また、林業関係のちょっと団体の方、町の方等と懇談をさせてもらったことがありまして、そのときも何ぼでも林業に関しては雇用するでというふうに言っておられました。本当にそういったところ、そういった受け入れ態勢もあるということなので、ぜひともここの数字、本当に増えて来るような可能性もたくさん秘めておりますので、より具体的に募集等をかけていただけたらなというふうに思っております。

また、その農業の関係で３名ということでした。私自身も農業に携わる地域おこし協力隊の方があったらなあというふうに思っていたところ３名ということでいいなというふうに思います。なかなか本人はたぶん言えんと思いますので私が言いますけど、本当に先ほども出ていました、エゴマのことや夏イチゴ等、本当にとても希望が持てる特産品にふさわしいようなものも出てきていますので、本当に言って、こういうところを町を挙げてやってはどうかなというふうに思っておるところです。山、また米のことやジビエ肉等のこともありますが、私自身はちょっと委員会が教育民生常任委員会なので、あまり今、情報がないんですけども、ちょっと端からというか、情報がない中で感じているところが、加工する施設がないのかなと。作る人はおんさるんですけど、その加工するのはやっぱり外に持って出んとできないというようなことを聞いております。販売は道の駅等で販売はでき

るので、そこはクリアできるんだと思うんですけど、そういった加工に従事するようなかたも必要なんじゃないかなというふうに思っております。ちょっと思いつくようなことをべらべらしゃべっておりますけど、この辺のあたりで町長、何か所見がありましたらお願いします。

（川上議長）　答弁を求めます。小林町長。

（小林町長）　はい。私、長い間ですね、地域おこし協力隊の皆さんを見て、一番大事なことは地域がどのように受け入れていくかということが、一番私は大事だと思っております。１つ、これ成功しなかった例ですけども、林業で来ていただきまして、１人おって薪をせえ、割れえと言ったって、それはできるわけないわけでして、例えば、若桜木材協同組合に行って仕事しながらそういうことができるとか、そういう場所とかいうようなことでやらないと、何も相談もなかなかできないというようなことがあったりして、これは失敗して１年で帰られたわけですけども、やっぱり自分としてみれば寂しい、それからそこの地域に住んでいるやっぱり集落の皆さんとやっぱり普段の生活のあれができないとやっぱり若桜はいいということが言えないということを思っておりまして、そういう面でのやっぱり受け入れというようなことが十分にできないと思っております。私たちもよく言うんですけども、おってもらって、そして林業が好きなら八頭の中央森林組合にでも頼みますよという話もして、組合長さんも、いや、ちゃんと受けはしますよというような話まで出てきておるんですけども、その前段のところが、非常にちょっと難しい問題がございまして、若桜の、何かちょっと違うところがございまして、ですから返って、集落なんかに出ておりますと、集落と本当に一緒になって仕事ができたり、そういうことができてくるという具合に思っておりまして、できれば今度はやっぱり商工業とか、農業、それから集落に住んでいただいていろんなことをお手伝いできたらというようなこともこれからは考えていかないといけんかなという具合に思っておるところでもございます。

（川上議長）　前住孝行議員。

（前住議員）　はい。僕は最後まとめで言おうと思ったようなことが、ちょっと出てきとって、それは最後の方に言わせていただきたいというふうに思います。

では３番目の質問に移りたいと思います。議会報告会のときですけど、吉川集落や落折集落の方、訪れさせていただきました。その中で地域おこし協力隊のことを話しましたら、それはぜひとも受け入れたいというような声もありました。具体的にはＹＹＣのそば作りを一緒に手伝ってもらって、３年後には独り立ちできるようになればいいのになというような、結構強い思いで話された方もありましたし、落折集落の方ではヤマメやイワナなどの養殖をして、十分これでも食っていけるだけの収入はあるでというような意見も聞いて

おります。こういった本当に先ほど町長の方も地域で受け入れということを言っておられましたけど、具体的に結構、こういった落折、吉川っていうふうに名前、地名も出て来るような状況もありますので、こういったいい意見を伝えましたが、このことについて所見を伺います。

（川上議長）　答弁を求めます。小林町長。

（小林町長）　はい。実は私も以前から吉川と落折は一番いいかなということを思っておりまして、吉川に上がったり、あるいは落折からもそういうお話もさせてもらいました。落折も家がたくさん空いている。それからまた、落折の平家さんもイワナなんか、もう高齢化してきたので施設はあるしというようなこと、もう１つは新しく帰って来られた平家さんが、イワナや喫茶店みたいなことをしておられたり、大根作って出されたり、出荷されたりと、いろんなこともしておられまして、家も空いておるしいいじゃないかなというお話。それから吉川でございますけども、寄来屋を拠点にして子どもたちをどんどん大阪の方からこちらの方に来て、体験農業や林業・畜産とか、それからあるいはウィンナー作りとかいろんなことができて、そして手が空いたときには吉川のいろんな人とのお手伝いができたりと、そういうようなことを地域みんなが受け入れすればいいじゃないかなと、他のところでよくそういうことが出てきておりますけども、それぐらいに負けんことができるという具合に思っているところでございまして、以前から私も口だけで言っているところですけども、どうしたら実際に実現できるかなというようなことも、これから考えてみないといけんという具合に思っておりますけども、確かに地域に受け入れていただけるっていうことは、非常に若桜に対して親しみを持っていただいたりというようなこともございますし、それから、よっしゃ、若桜に住んでみようか、いいところだなというところが出てくるという具合に思っておるところでございまして、ぜひともこういうところをこれからも受け入れを地域の人とお話をしながらやっていかないと、こっちが、よっしゃ、なら、吉川だっていうわけにいかないわけでございまして、地域のみんなともＹＹＣなり、あるいはいろんなところで受け入れをしながらと、それから落折なんかでも家がありますけども、少し家を直さないといけんという問題も出てまいりますから、そういうようなこともこれから考えてみたいなということを思っておるところでもございます。

（川上議長）　前住孝行議員。

（前住議員）　はい。それでその吉川集落の話や落折集落の話、僕以前も確か町長の、１年前ぐらいですかね、本当にそういったことを聞いて何という良いことを考えとんさるなというふうに思って、だけど１年経ってなかなかかたちに見えてこんなっていうことでちょっと今回、こういった質問させていただいておりますし、議会報告会のときにもそういった声があった

ので、もうこれは今回質問しようということでさせていただいたところです。それで、その吉川集落のＹＹＣの方が言っておられたんですけど、地域おこし協力隊だけのお金じゃなかなか住むのも大変ですんで、その蕎麦を提供することでの収入みたいなこともあってくると思うんですけど、それでそれを結構今、Ｇバス等で岩屋堂がすごいということを山本委員長の方から聞いております。それで、その岩屋堂で店をしてはどうかっていうようなこともその吉川集落の方が言われていました。それで、1人立ちして吉川、吉川じゃなしに、岩屋堂で店をして、それでやっぱり1軒じゃいけんと、それで何軒もがこう集まってもう蕎麦処みたいな感じでやったらええのになというようなことも言っておられまして、本当にそれはこの地域おこし協力隊のかたが入って1軒と、その話しておられる方が私も今の仕事辞めて2軒目やるからみたいなことも言っておられたりしていましたので、そういった何か夢というか、ある程度のビジョンっていうのも見えてくるので、ぜひともその先駆けとなることを地域と集落と相談しながらやっていただきたいなというふうに思います。

それで、4番目の質問に入りますが、さらに眷米集落の方でも山岳観光のコーディネーターというようなかたちで県の観光事業団や町の観光開発事業団、業者組合等々それぞれの団体をつなげる役割をしてくれる人を育成してはというふうに思いますが、どうでしょうか。

（川上議長）　答弁を求めます。小林町長。

（小林町長）　はい。岩屋堂の集落の高齢者の皆さんのお話がちょっと出たんですけども、実を言うと、そこは大坪の英治さんがしっかり頑張っていただいて、あそこまでできたんでそのことは皆さん忘れないようにしていただきたいなということを、あの人がアクションを起こしていただいてできたわけでございます。それからまた、今、岩屋堂で店をということがありますけども、実は岩屋堂のバイパスのお願いをするときには、もう既にそういう絵も私たちは描いておりまして、その中でここに何かこういう喫茶店ができたらなというようなことまで、絵までも県に出したりしながら、ぜひこういう取り組みもやりたいというようなことでバイパスをお願いしますというようなことも出しておりまして、そういうところで、空き家を借りたらとかいろんなこともできるという具合に思っておるところでもございます。

お訊ねの眷米集落でも山岳観光コーディネーターというかたちでそれぞれの団体をつなげる役割をしてくれる人を育成してはどうかというお訊ねでございますけども、若桜町の観光振興を担う組織として若桜町観光協会があります。また、氷ノ山の観光振興のためには氷ノ山自然ふれあいの里活性化協議会がございます。これらの組織が連携して取り組みを行っていく必要がありますが、必ずしも十分な状況とは言えません。そのため、観光管理の組織の連携の強化を行い、

役割を明確化するなど、観光客の皆様にご満足いただけるような体制作りが喫緊の課題であると思っております。オールシーズン型の氷ノ山をＰＲして観光客を誘致していくためには専門的な組織を有し、調整役となる方は必要だとは思いますが、現在の状況では生業として成り立つことは考えにくいと思っております。山岳ガイドについては要請を行っておりますので、今後も人数は増えていくと思いますので連携しながら取り組んでいただきたいと考えております。私が具体的な話をさせていただきますけども、実は本当に現在その樹氷太鼓の皆さんですね、鳥取大学や環境大学の皆さんが本当に地域に入って活動をしておられるということがございまして、本当に私たちがやっぱりよくこの地域おこし協力隊やまちおこしの中でも大学生をどんどん地域に使うというのはすごく地域が活性化するという話もあるんですけども、正にそのとおりでございまして、皆さんも「女性の方が若桜に住みたいっていう方が２人ぐらいある」ということで、これはいい話をされますなあというようなことで、県外の方ですけどね、そういうようなことがあれば何か私も真剣に考えてみてあげることも大事だなということも思っておりまして、そんなところで、どうか地域おこし協力隊、何かできないかなというようなことも、これから私はやっぱり考えていかないといけんとそういういいチャンスの方があるわけでございますから、そういう面も考えていきたいと思っておりますし、そういう面で私はやっぱりトスクの２階を移住定住センター、それから地域おこし協力隊のセンターとしてするっていうのは、その定住のいわゆるうちの職員その下には相談員がいると、そしてその相談員の下には協力員という住民の皆さんがおると、そういう格好でやっぱり拵えて、住民と一緒になってそういう受け入れをしたりと、そのようなことをこれから考えていくことが非常に大切だなと、もちろん役場も参画はさせてもらうんですけども、やはり住民と一緒になってこれからそういう仕事をやっていくということは、そうすれば、「あそこの家だったらすぐに、じゃあ、私が交渉してみるわ」とか、いろんなことが住民の皆さんと相談すればできてくるという具合に思っておるところでございまして、そのようなことをぜひこの機会に構築をしながら、みんなで若桜の移住定住、地域おこし協力隊、そして活性化の町というのを作っていきたいなということを思っておるところでもございます、ご理解していただきたいなと思っております。

（川上議長）　前住孝行議員。

（前住議員）　はい。とてもいい答弁でとても嬉しいんですけど、以前も氷ノ山のあり方懇話会の話でユースホステルの跡地をどういうことになるのかなと、僕はすごい様子を伺っているんですけど、なかなか話がまだ２回ですか、１回あったぐらいで進んでないようですが、ちょっとそこの関係のことで何か以前町長はその跡地のところに拠点になるような場所という

ようなことで、それで、登山届の提出場所にしたりとか、っていうようなことを言っておられて、それもいいですし、それで、山岳ガイドの受付場というようなこと等もありました。それで、今、結局そのユースホステルまだない状況で跡地のまんまなんですけど、その分校の活用というようなことも絡めて、それで、もう結局ユースホステルの場所だと登山届出し行くのもなかなか、わざわざあっちにいかないといけんというようなこともありますし、もし分校が空いとったら、あそこは絶対通りますので、あそこを何かやっぱり登山届の場所っていうふうにすれば、ほぼ確実じゃないかもしれませんけど、通り道なので出しやすいんかなというようなこともあると思います。それで、そこにその山岳観光コーディネーターみたいな人がいて、それで、以前も何遍も言わせてもらっていますけど、つく米神社のお守りを、そこのつく米集落のおじいさんおばあさんと一緒に作ったりとか、それから当然先ほど言ったような、それぞれの団体のつなぎ役を、それがメインなんですけど、そっちをしながら、特にないときはそんなことをやったりとか、今すごいつく米神社の下手にある、権現滝のガイドコースも出来ておりまして、かなりの方が来ておられます。だけど、なかなか看板等もなくて、案内をしないとなかなかたどり着けないような場所なので、そこに案内ガイドっていうようなかたちで、1人おればお守り作りにやってくる高齢者の方もいて、そしたら何かその辺がコミュニティの一つになるんかなというふうに思ったりして、勝手に想像を膨らましておるところです。

また、2020年は東京オリンピックがありまして、今、まだ正式決定してないんでしょうけど、スポーツクライミングですか、が若者向けの候補種目として挙がっております。それでちょっと若桜におってもちょっとあんまりオリンピックの風を受ける何か影響がないんですけど、ちょっとそういうのに先駆けて、つく米分校の広いホールがあるんですけど、そこの壁をこう上がれるように、こうしとったら人が来ないかなというふうに思ったりもしていまして、そういった自然に、氷ノ山の自然を使ってやるのが本当はメインなんですけど、天候が悪いときに、やっぱり補助的な感じでそういったところもあれば、本当、人も呼びやすいのかなというふうにも考えております。またいろいろしゃべりましたけど、そのことについて何か町長の考えがありましたら、お願いします。

（小林町長）　議長。通告書に今のはありませんので。

（川上議長）　はい。

（小林町長）　どう思われますか。

（川上議長）　通告に沿った質問にお願いいたします。

（前住議員）　はい。分かりました。はい。すいません。じゃ、妄想がちょっと激しいもんで。本当にそういったスポーツクライミングっていうのは、以前、去年も県の事業でやっていただいておりまして、結構、流行ってきておりますので、ぜひともこ

ういったのを若桜町で、どっかいいところでできたらいいのになあというふうに考えておるところです。

では、5つ目の質問に入ります。それぞれの集落等々でこういった意見があるんですけど、なかなかそれをまとめていくのに、人が必要だろうなということを思っております。ただでさえ大変な少人数で職員を動かしてもらっておりますが、それでちょっと地域おこし協力隊っていうのを調べているところで、集落支援員っていうのを見つけました。それで、そう思ったのが、やっぱり議会報告会で限界集落っていうのをすごい言われる集落がたくさんありまして、それでそこをやっぱりフォローする施策が必要だろうなっていうことで、でもなかなか人件費等を組むのは難しいなっていうふうに思っていたところ、集落支援員ということです。それで山本議員の仮称の地域コミュニティ協議会とか、上川議員の地域活動コーディネーター等々もあったようですが、その人材っていうか、ということで、こういったのはどうでしょうかということです。といってもぱっとわかりにくいと思いますので、ちょっと調べたところを言いたいと思うんですけど、先程の中で、集落担当職員っていうのが何回も出てきておりまして、設置をされて火災報知器等の呼びかけや個々に当たって火災報知機設置の徹底をされたっていう経緯はありますけど、それ以上の何か動きが、私自身はあまり見られてなかったということです。

そこで平成20年の4月24日に過疎問題懇談会から過疎地域等の集落対策についての提言っていうのが出されて、その中に集落支援員の設置っていうのがありました。そのことを受けて、総務省は平成20年の8月1日に、この集落支援員に係る経費を特別交付税措置するという通知を出しております。内容としては、集落への目配りとして巡回、状況把握を行なって、集落のあり方について住民との話し合いを行い、課題解決のための施策につなげる役割を果たしますということです。それで例といたしまして7つ挙げておられまして、①デマンド交通システムなど地域交通の確保、②都市から地方への移住・交流の推進、③特産品を生かした地域おこし、④農産漁村教育交流、⑤高齢者見守りサービスの実施、⑥伝統文化継承、⑦集落の自主的活動への支援などを例として挙げられております。こういったことを本当にいろんな部分をカバーできるような支援員になるんではないかなというふうに思いますが、この設置についての考えを伺います。

（川上議長）　答弁を求めます。小林町長。

（小林町長）　はい。余談ですから、先程のつく米の分校の問題につきましては、実はまだ教育財産なんですけども、するときには地域の皆さんと一緒になって決めましょうという話をしておりまして勝手にここで答弁するというわけにはいきませんし、すごい大きな建物でございますから、もっともっと広い使い方があるんじゃないかなということは、広い意味でこれ

から検討していかないといけないという具合に思っております。それから先ほど言いましたように、集落担当職員ですけども、そこまで大きな問題を期待しているのではなしに、高齢化しているのは本当に町の職員が知っとるだろうかというようなことから、少しは安心させるというようなことですから、常時見えんと、動きが見えんとそういうことはちょっと言ってもらってもちょっと困るわけでございまして、その程度に抑えていただきたいなということを思っておるところでもございます。

それから集落支援員のことでございますけども、実は私たちが制度を知ってないということでない、遠から私たちも勉強はしてきておりまして、何とかこれは若桜に出来んかなということも、いろいろ今議論をしとるところなんです。集落支援員制度とは、限界集落の目配り役として、中山間地域の集落を巡回して、各所帯の状況把握や集落点検の実施や困りごと相談など、幅広い分野で活動する人を委嘱する制度であります。総務省が 2008 年度から始めた事業で、平成 26 年度の専任の集落支援員は全国で 858 人となっています。私もこんにちは移動町長室などで、住民の皆さんの声を聞く機会が多いので、冠婚葬祭など社会的共同生活の維持が困難になりつつあるなど、住民の皆様の集落維持の危機意識については十分認識はしております。しかしながら、地縁関係による人のつながりは都市部に比べればかなり強いので、共助の精神で声をかけあったり助けあったりしていただくことが大切だと思います。本町においては民生委員の皆様に集落での見守りなど集落支援員の業務に近いようなことをしていただいておりまして、大変感謝しております。今後は地域で包括的な支援サービス提供の体制を構築することが求められておりますので、一緒になって助け合いや見守りに力を入れていきたいと思っております。また、県が作成した集落創造シートをご活用いただき、集落の状況を客観的に把握しながら集落の中で話し合いをしていくことも大切だと思っております。総務省からも若桜町、活用したらというお話も聞いておるところでございまして、他の町村の集落では立派に集落支援制度を活用してるところもあるので、私はやっぱり導入に向けて研究していくべきだという具合に思っておるところでもございます。特につく米なんかの場合も、もう少し、今一歩前進をしてみんなが一緒になってこの集落を守るということをこれからは一番考えていかないといけないと思っておりまして、今年もなかなか棚田の事業もできなくて繰り越しということも出てきましたし、また、ちょうど勝原理事長がおるときにもいろんな計画を立てたんですけども、本当にやっぱりみんながやろうというところが出てこないと集落支援員を入れたって、何だ、あれにはしっかり金入れているけど何もせんがな、こういうことになっては困るわけでございまして、できたら集落の皆さんの中でみんなが了解し

て、あれに頼もうかというようなことで集落支援員ができてくるという具合に思っておりますから、これからもそういう面で、本当に私は、よそがやっとるんですから、なんで若桜にできないことはないということを思っておりますから、しっかり研究をして頑張ってみたいという具合に思っておりますので、その辺、ご理解いただきたいと思っております。

（川上議長）　前住孝行議員。

（前住議員）　はい。本当に今、町長が言われました平成 26 年度の県内の他町の様子、もう僕も調べておりまして、八頭町が８名おられますし、智頭も９名ですし、県内で一番多いのは南部町で 16 名というようなことで、本当に行政経験者や農業委員会など、農業関係業務の経験者等の人材ということ等があります。それで、本当にかなりこういったところを掘り起こせば人材不足っていうこともカバーできるでしょうし、その適役な人がおるかどうかということがあるんですけど、そういったところはやっぱりいい人材というかを確保しながら、地域、それぞれ集落の困りごと等もカバーできるような体制にできたらなというふうに思っております。

本当に、最後に言おうと思っていたことっていうのを町長に言われましたけど、本当にこの地域おこし協力隊やこういった集落支援員等々ですけども、地域とのつながり、集落であったり、働き場での人間関係等のつながりが本当に大事なんだなというふうに、私自身も思っております。

もう１つ、昨日ウトウトしながらこれは言わないといけんなと思ったのが、来てくださった若い世代ですね、その若い世代と同年代の世代とのつながりというのも必要かなというふうに思いました。集落での困りごとなどは集落ではなかなか悩みごととして言いにくいかもしれんところを同世代のつながりがあれば、そこでちょっと愚痴も言えたりとか、困りごと等も言えたりして解決できたらなというふうに思ったところです。

本当に若桜町ですので、若い力をたくさん取入れていただけるふうになって、みんなが本当に注目してもらえるような若桜町になることを期待しまして質問を終わりたいと思います。

ありがとうございました。